

くまもとアートポリス建築展2021

「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」

— みんなの家、後世へつなぐ復興 —

総合記録



くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ART POLIS

KUMAMOTO ARTPOLIS 2021

くまもとアートポリス建築展2021

総合記録

くまもとアートポリス建築展2021実行委員会

KUMAMOTO ARTPOLIS 2021



くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ART POLIS

総合記録

Exhibition of Architecture KUMAMOTO ARTPOLIS 2021

くまもとアートポリス建築展2021

目次Contents

● 開催挨拶	蒲島郁夫 熊本県知事	2
● メッセージ	伊東豊雄 くまもとアートポリスコミッショナー	3
くまもとアートポリス建築展 2021		
● 事業一覧		4
● 展覧会		9
● トークイベント		19
● シンポジウム		
	熊本・仙台会場	23
	熊本シンポジウム	32
	仙台シンポジウム	34
● 協賛事業		36
● 総括メッセージ		38
参考資料		
● 広報		
	印刷物	39
	新聞掲載	42
	SNS 広告	46
	冊子	47
● 実行委員会		
	くまもとアートポリス建築展 2021 実行委員会会則	48
	委員構成、協力・後援団体	50

開催挨拶

「くまもとアートポリス」は、今年で34年目を迎え、これまで、熊本県下を舞台に豊かな自然や歴史、風土を生かしながら、後世に残り得る文化的資産としての優れた建造物を生み出してきました。

そして、2011年の東日本大震災の際には、くまもとアートポリスのコミッショナーである建築家・伊東豊雄氏からの提案に賛同し、被災された方の憩いの場として木造の「みんなの家」を仙台市に提供しました。

この取組みをきっかけとして、熊本県では、被災者の痛みを最小化し、被災された方々に少しでも安らぎを感じてもらえるよう、2012年の熊本広域大水害では48戸の木造仮設住宅と2棟の「みんなの家」を、2016年の熊本地震では4,303戸の仮設住宅と100棟を超える「みんなの家」を整備しました。そして、昨年発生した令和2年7月豪雨では、これまで積み重ねてきたノウハウを活かして808戸の仮設住宅を全て木造とし、「みんなの家」も20棟整備しました。

住民の方の憩いの場となった「みんなの家」の多くは、仮設住宅が撤去された後も被災地区に移設され、公民館や交流施設などの新たな地域づくりの拠点として活用されており、創造的復興から地方創生へとつながる取組みが少しずつ形になりつつあります。

しかし、未だ熊本地震の184名及び令和2年7月豪雨の3千人を超える被災者の方々が仮設住宅などでの仮住まいを余儀なくされており、熊本県では「誰一人取り残さない」という決意で被災者の生活再建や創造的復興に向けて、全力で取り組んでいるところです。

今回のくまもとアートポリス建築展では、全国で自然災害が頻発する中、くまもとアートポリスが取り組んできた「みんなの家」を中心とした復興支援や復興に向かう熊本の姿を全国に発信し、全国の被災された方や復興に携わる方へのエールとなることを願って、「みんなの家」のはじまりの場所である仙台と、東京、熊本の全国3箇所を巡回する展覧会を開催することとしました。

熊本地震や令和2年7月豪雨からの創造的復興はまだ道半ばです。皆様の格別の御理解と御協力をよろしくお願いします。



2021年11月3日
くまもとアートポリス建築展2021実行委員会
会長 蒲島郁夫

「みんなの家」はこれからの公共施設のモデルである

「くまもとアートポリス」事業は、県内の公共施設を中心にコミッショナーが設計者を推薦し、文化的に優れた建築物を生むことを目指してきました。4代の知事に継承され、34年も続いている事業はきわめて稀であると思われます。

若い建築家にとっては「アートポリス」のプロジェクトに携わることはひとつの目標であり、新人の登竜門と言われてきました。私は3代目のコミッショナーとして3人のアドバイザーの方達の協力を得て、設計者の決定に関わってきました。「アートポリス」事業が長続きしているのも、蒲島知事以下、県の方々と我々との深い信頼関係に因るものと思っています。言い換えれば、利用者の方に喜んで頂ける建築をつくりたいという共通の理念がこの信頼関係を生んでいるのでしょう。

とりわけ東日本大震災後の仙台市宮城野区に「みんなの家」第一号を県がサポートし、被災した地元住民に大変喜ばれた結果、その後の熊本における自然災害の際には、100棟を超える「みんなの家」が建設されました。しかも仮設住宅解体後もその多くは、地域のコミュニティを継続するために存続されています。

三陸の被災地では主として民間の寄附などによってボランティアにつくられていた「みんなの家」が、熊本では小さな公共施設へと変わったのです。この事実は大きな意味を持っています。「みんなの家」が最早単に災害時の集会のための仮設建築物としてだけでなく、平時の地域住民のコミュニティ施設となりつつあるからです。

「みんなの家」はいかに小規模であっても、特定の機能に特化せず、多様な年齢層の多様な活動に供する建築として、これからの公共施設のモデル的役割を果たすと考えられます。「くまもとアートポリス」は、真の意味で住民のための活動を果たす事業となりつつあるのです。



2021年11月3日
くまもとアートポリスコミッショナー
伊東豊雄

■事業一覧

◆ 展 覧 会

くまもとアートポリス巡回展
ーみんなの家、後世へつなぐ復興ー

（東京会場）令和3年10月22日（金）～令和3年10月28日（木）
東京メトロ銀座駅 B2出入口付近「ふるさとPRイベント」スペース

（熊本会場）令和3年11月3日（水）～令和4年1月16日（日）
熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー、ギャラリーⅢ

（仙台会場）令和4年1月23日（日）～令和4年1月26日（水）
せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

主 催 熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会
共 催 熊本市現代美術館（熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団）/熊本会場
せんだいメディアテーク/仙台会場

協力 NPO法人HOME-FOR-ALL

入 場 者 数 8,730名（東京:2,528名、熊本:4,585名、仙台:1,617名）

◆トークイベント

展覧会企画トークイベント
くまもとアートポリス建築展2021×熊本市現代美術館
「これからの公共建築、災害時のアートインフラを考える」

開 催 日 令和3年11月27日（土） 13：00～14：00
会 場 熊本市現代美術館（ホームギャラリー）

主 催 熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会、
熊本市現代美術館（公益財団法人熊本市美術文化振興財団）

出 演 者 日比野克彦（熊本市現代美術館 館長）
曾我部昌史（くまもとアートポリスアドバイザー）

参 加 者 53名、オンライン配信視聴者150名以上

◆シンポジウム

みんなの家シンポジウム ーみんなの家って何だろうー

開 催 日 令和4年1月23日（日） 14：00～17：00

本会場（熊本） ホテル熊本テルサ
（東北） せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）

サテライト（熊本） 益城町木山のみんなの家
大津町高尾野のみんなの家
西原村袴野集会所

（東北） 相馬 こどものみんなの家
新浜のみんなの家

主 催 熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会、
NPO法人HOME-FOR-ALL

共 催 仙台市、せんだいメディアテーク（公益財団法人仙
台市市民文化事業団）

協 賛（東北） 株式会社大林組、株式会社オカムラ、鹿島建設株
式会社、カリモク家具株式会社、北野建設株式
社、サッポロ不動産開発株式会社、株式会社シェ
ルター、清水建設株式会社、株式会社総合資格、株
式会社竹中工務店、田島ルーフィング株式会社、株
式会社丹青社、株式会社Tポイント・ジャパン、戸
田建設株式会社東北支店、株式会社ニュースト、マ
ナトレーディング株式会社（五十音順）

後 援（熊本） 熊本日日新聞社、西日本建設新聞社、NHK熊本放
送局、熊本放送、テレビ熊本、熊本県民テレビ、熊
本朝日放送、エフエム熊本、FM791

後 援（東北） NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、宮城
テレビ放送ミヤギテレビ、KHB東日本放送、河北
新報社、朝日新聞社仙台総局、読売新聞社東北総
局、毎日新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、日
本経済新聞社仙台支局

参 加 者 せんだいメディアテーク60名、
オンライン配信視聴者470名以上

第一部

「みんなの家って何だろう」

■熊本会場

ホテル熊本テルサ

総合コーディネーター 曾我部昌史
(くまもとアートポリスアドバイザー)

桂英昭 (くまもとアートポリスアドバイザー)
末廣香織 (くまもとアートポリスアドバイザー)
塚本由晴 (アトリエ・ワン)
岡野道子 (岡野道子建築設計事務所)

益城町木山のみんなの家

内田文雄 (龍環境計画)
西山英夫 (西山英夫建築環境研究所)

大津町高尾野のみんなの家

千葉学 (千葉学建築計画事務所)

西原村袴野集会所

山室昌敬 (セルアーキテクツ)

■東北会場

せんだいメディアテーク

伊東豊雄 (くまもとアートポリスコミッショナー、
HOME-FOR-ALL理事)
山本理顕 (山本理顕設計工場、
HOME-FOR-ALL理事)
妹島和世 (妹島和世建築設計事務所、SANAA、
HOME-FOR-ALL理事)
柳澤潤 (コンテンポラリーズ)
近藤哲雄 (近藤哲雄建築設計事務所)
大西麻貴 (o+h)
百田有希 (o+h)

相馬 こどものみんなの家

アストリッド・クライン
(クライン ダイサム アーキテクツ、HOME-FOR-ALL理事)
マーク・ダイサム
(クライン ダイサム アーキテクツ、HOME-FOR-ALL理事)
久山幸成 (クライン ダイサム アーキテクツ)

新浜のみんなの家

古林豊彦 (伊東豊雄建築設計事務所)

第二部(熊本会場)

「みんなで語ろう!熊本みんなの家ネットワーク」

総合コーディネーター 末廣香織
(くまもとアートポリスアドバイザー)
他 熊本会場の出演者

第二部(東北会場)

「新しいみんなの家をつくろう」

総合コーディネーター 柳澤潤
(コンテンポラリーズ)
他 東北会場の出演者

協賛事業

開催日	イベント名	参加者数
R3.7.2、 R3.7.3	令和3年度「浸水住宅復旧のための講習会」	108名
R3.8.3～ R3.8.8	第32回熊本の建築家作品展	185名
R3.8.5	「くまもと型伝統構法を用いた木造建築物設計指針・同解説(第2版)」講習会 [くまもと型伝統構法構造設計入門]	35名
R3.10.1	第44回建築士事務所全国大会(熊本大会)	コロナ禍により延期
R3.10.1～ R3.12.19	湯前まんが美術館企画展 「ギガタウン イン テラタウンーこうの史代の世界ー」	377名
R4.1.26	「あやすぎを使った家づくりの未来を考える」シンポジウム	動画配信視聴者：173名以上

くまもとアートポリス建築展2021のアーカイブはこちら



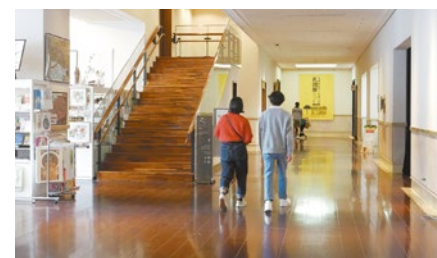


展覧会

◆展覧会 くまもとアートポリス巡回展 ― みんなの家、後世へつなぐ復興 ―

- (東京会場) 令和3年10月22日(金)～令和3年10月28日(木)
東京メトロ銀座駅 B2出入口付近「ふるさとPRイベント」スペース
- (熊本会場) 令和3年11月3日(水)～令和4年1月16日(日)
熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー・ギャラリーⅢ
- (仙台会場) 令和4年1月23日(日)～令和4年1月26日(水)
せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

東日本大震災をきっかけに、くまもとアートポリスが取り組んできた「みんなの家」を中心とする人と人とのつながりを大切にしたい復興への取り組みを振り返りながら、これからの「みんなの家」が担う役割を考えるとともに、復興する熊本の姿を全国に発信するために、東京・熊本・仙台的全国3ヶ所を巡回する展覧会を開催しました。本展では、東日本大震災以降、度重なる災害において整備されてきた120棟を超える「みんなの家」の取り組みや、災害からの創造的復興に向けて取り組んでいる新たなアートポリスプロジェクトについて、写真パネル、建築模型、映像により展示しました。会期中には全国3つの会場を巡回したことで延べ8700名以上という非常に多くの方にご来場いただき、人と場所をつなぎながら、全国の方に「みんなの家」を中心としたくまもとアートポリスの取り組みを知ってもらおう機会となりました。



展覧会の様子を
YouTubeで
公開しています。



1. 展示ストーリー

Chapter.1 みんなの家の始まり

東日本大震災で家を失った方が集い、心の安らぎを得られるような場所を提供することで、少しでもその辛さを和らげることができないかという、くまもとアートポリスコミッショナーで建築家の伊東豊雄氏の想いが形となった「みんなの家」。この想いに賛同し、くまもとアートポリスで初めての県外事業として仙台市の仮設住宅団地に提供した「宮城野区 みんなの家」ができるまでのプロセスを写真パネルにより展示しました。

また、伊東豊雄氏らの呼びかけにより世界中の建築家、アーティスト、子どもたちなどから届けられた「みんなの家」のスケッチを展示しました。



Chapter.2 みんなの家 東北での取り組み

「宮城野区 みんなの家」をきっかけに、東北では16棟の「みんなの家」が整備されました。建築家を中心に進められてきた東北の「みんなの家」の取り組みについて、当時の建築模型やNPO法人HOME-FOR-ALLにより制作された設計者へのインタビュー映像により紹介しました。



Chapter.3 みんなの家 熊本での取り組み

東北での「みんなの家」の取り組みは熊本へとつながり、災害で被害を受けられた方に少しでも安らぎを感じていただけるよう、平成28年の熊本地震においては、100棟を超える「みんなの家」が整備されました。仮設団地に整備されたもの、被災した公民館を再建したものなど熊本県が取り組んできた様々なバリエーションの「みんなの家」をパネルや映像により展示しました。



Chapter.4 アートポリスプロジェクトによる創造的復興

「みんなの家」の取り組みとあわせて災害からの創造的復興を目指して進めている、南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発や熊本地震震災ミュージアムなどの新たなアートポリスプロジェクトについて、パネルや建築模型を展示し、災害から復興する熊本の姿を発信しました。

(展示プロジェクト)

- ・南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発
- ・熊本地震震災ミュージアム中核拠点施設
- ・株式会社エバーフィールド木材加工場
- ・立田山憩の森お祭り広場公衆トイレ



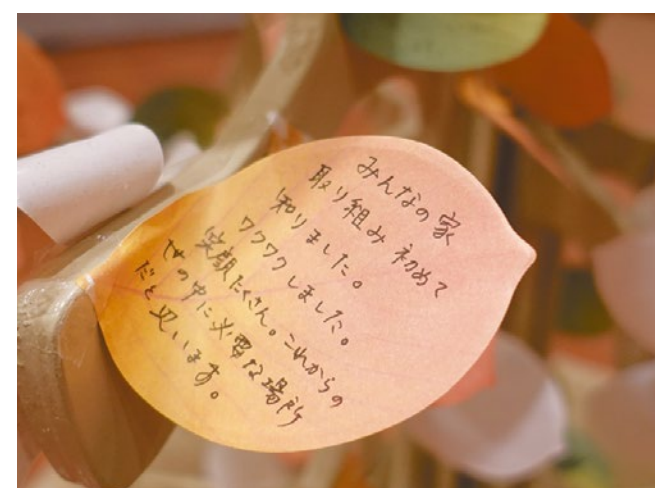
Chapter.5 これからの「みんなの家」

東北ではじまり、熊本につながり広がってきた「みんなの家」の取り組み。これからの「みんなの家」が果たす役割を考えるため、「みんなの家」がこれまで果たしてきた役割について写真や設計者、利用者などの声を組み合わせて展示しました。



Chapter.6 みんなのエールツリー

来場いただいた方に、「復興へのエール」「みんなの家への思い」をテーマに、葉っぱ型のふせん紙にメッセージを書いていただき、樹木を模した展示物「みんなのエールツリー」に貼り付けていただく参加型の展示を行いました。会期中には550名を超える方からメッセージを寄せていただき、ツリーは来場された方の温かいメッセージでいっぱいになりました。

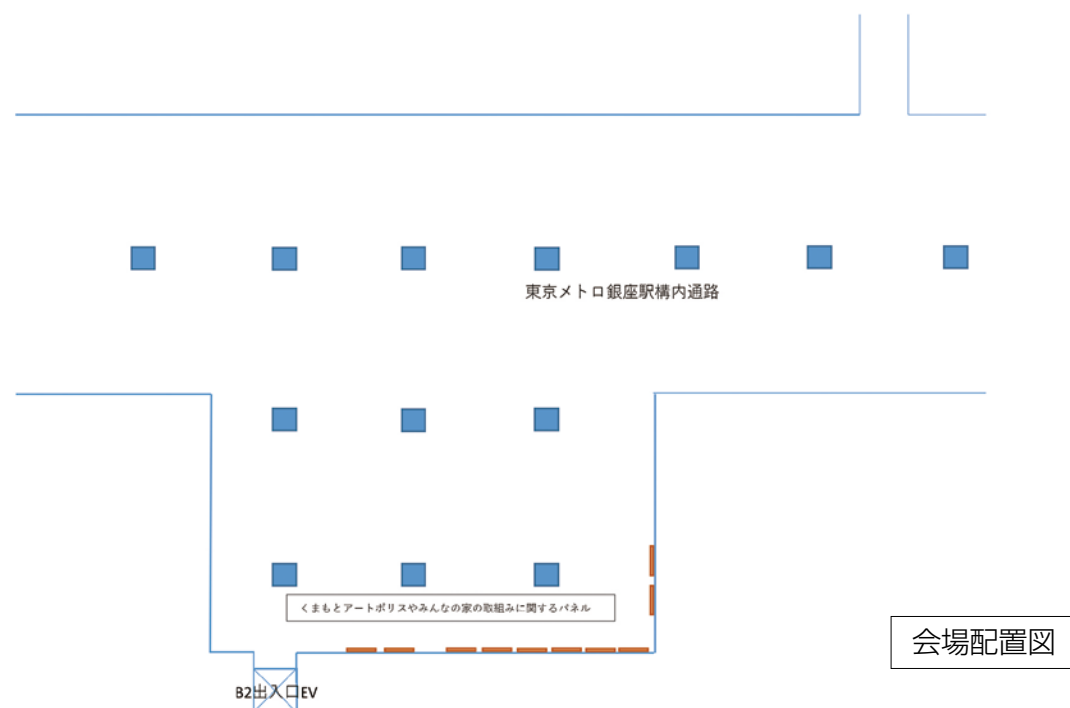
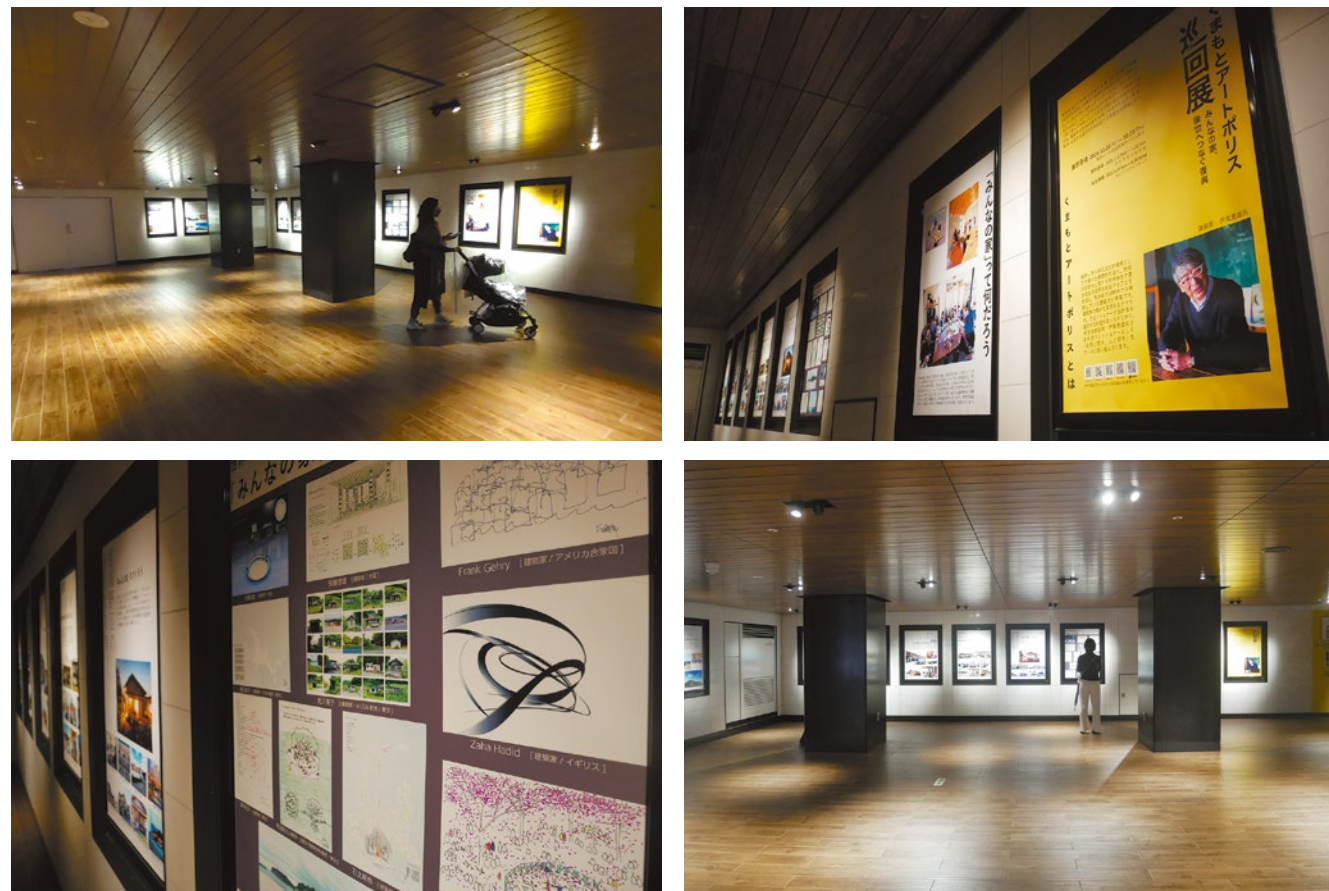


2. 各会場の開催状況

■ 東京会場

東京メトロ銀座駅 B2 出入口付近「ふるさとPR イベント」スペース 2021年10月22日(金)～10月28日(木)

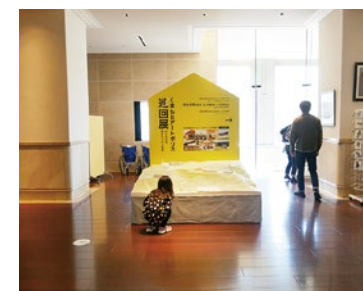
当初は、仙台、東京、熊本と巡回する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により仙台会場が延期となり、東京会場からのスタートとなりました。東京会場では、東京メトロ銀座駅構内のイベントスペースという、非常に人通りが多い場所で展示を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、展示物を壁面パネル10枚のみに限定することとなりましたが、駅を通行される多くの方にくまもとアートポリスの取り組みをご覧ください。



■ 熊本会場

熊本市現代美術館(井手宣通記念ギャラリー・ギャラリーⅢ) 2021年11月3日(水・祝)～1月16日(日)

熊本では、熊本市現代美術館の井手宣通記念ギャラリー、ギャラリーⅢで展示を行いました。2つのギャラリーを自由に行き来できるよう展示を計画し、同美術館エントランスには大きなパネルや模型も展示しました。熊本では3会場のうち、最も長い58日間の展示を行い、子どもからお年寄りの方まで県内外から非常にたくさんの方にご来場いただきました。「みんなのエールツリー」にはツリーに貼り切れなくなるほど多くのメッセージをいただきました。



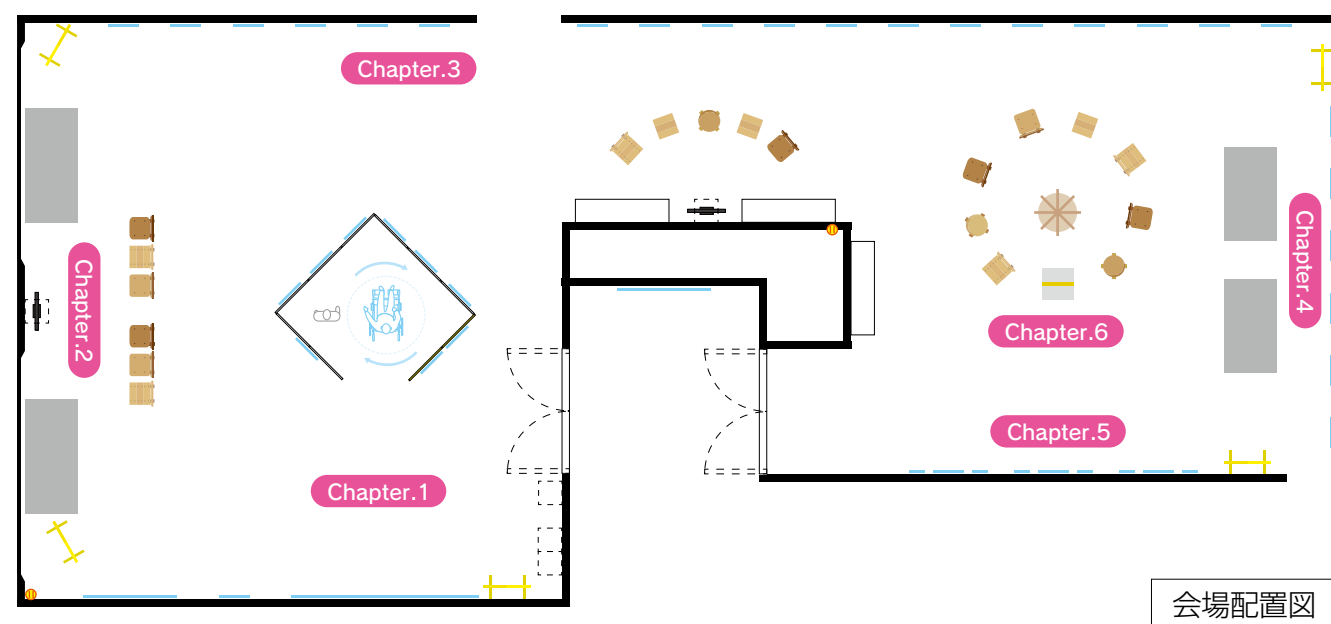
展覧会参加エコバッグ

熊本会場・仙台会場では、エールツリーにメッセージをいただいた方に特製エコバッグをプレゼントしました。

熊本会場では映像などの鑑賞用に、熊本地震の際に企業、団体、自治体等から寄贈を受け、「みんなの家」で実際に活用された椅子や、仮設住宅の廃材により製作されたスツールを活用しました。



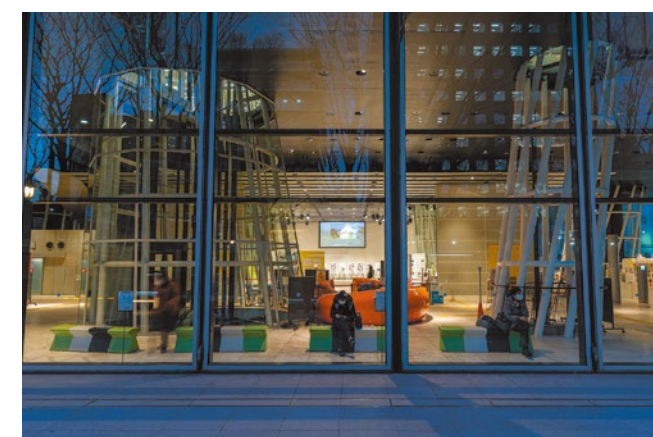
宇土市が開催した子ども向けワークショップで仮設住宅の廃材を使って作られたスツール



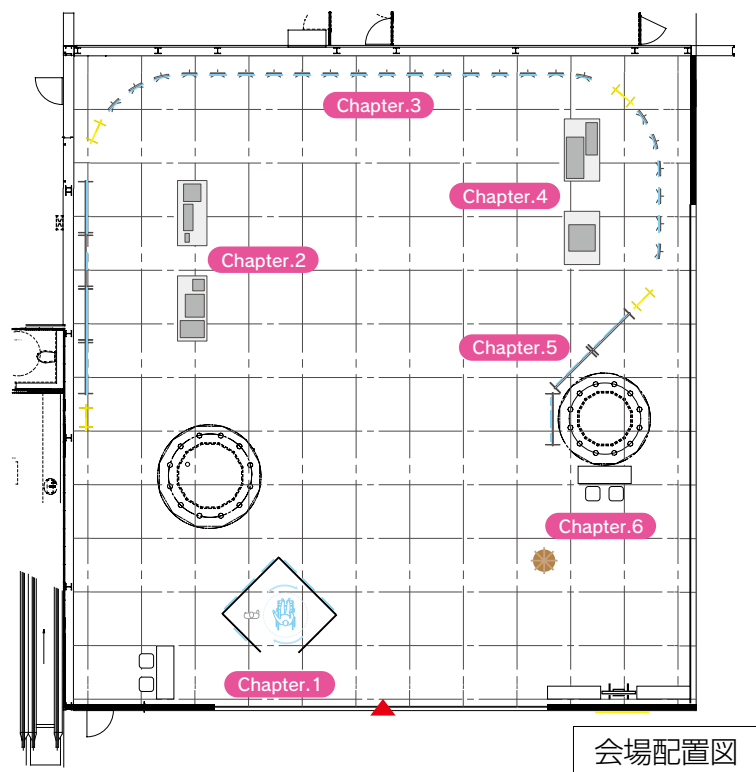
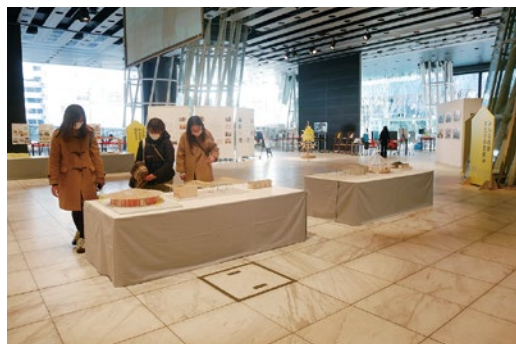
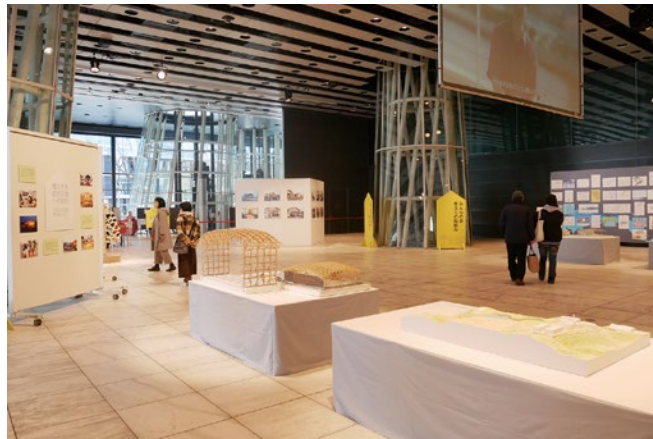
■ 仙台会場

せんだいメディアテーク1階オープンスクエア 2022年1月23日(日)～1月26日(水)

熊本から「みんなの家」を提供し、第1号の「みんなの家」が整備された地である仙台で開催しました。展示は、せんだいメディアテークの1階オープンスクエアで行い、人通りが多く、オープンで広い空間を生かして、パネルや模型をサークル状に配置する展示計画としました。また、初日は「みんなの家シンポジウム」と連携して開催し、シンポジウムに合わせて展示を行いました。



提供:せんだいメディアテーク(sendaimediatheque) 撮影:越後谷出(Izuru ECHIGOYA)



※提供: せんだいメディアテーク (sendaimediatheque) 撮影: 越後谷出 (Izuru ECHIGOYA)



トークイベント

◆展覧会

展覧会企画トークイベント

くまもとアートポリス建築展2021×熊本市現代美術館

「これからの公共建築、災害時のアートインフラを考える」

開催日:令和3年11月27日(土) 13:00~14:00

会場:熊本市現代美術館(ホームギャラリー)

主催:熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会、
熊本市現代美術館(公益財団法人熊本市美術文化振興財団)

出演者:日比野克彦(熊本市現代美術館 館長)
曾我部昌史(くまもとアートポリスアドバイザー)

参加者:53名、オンライン配信視聴者150名以上

トークイベントの様子を
YouTubeで
公開しています。



■概要

くまもとアートポリス巡回展2021「みんなの家、後世へつなぐ復興」の関連イベントとして「これからの公共建築、災害時のアートインフラを考える」と題して、熊本市現代美術館館長の日比野克彦氏と、くまもとアートポリスアドバイザー曾我部昌史氏とのトークイベントを巡回展開催中の熊本会場にて開催しました。

■展覧会トーク内容

事前に熊本の展覧会場を見学した二人は、展示内容を紹介し、「みんなの家の始まり」「みんなの家 東北での取り組み」「みんなの家 熊本での取り組み」の展示パネルを振り返り、みんなの家が生まれたきっかけや、くまもとアートポリスとみんなの家の関係、HOME-FOR-ALLの取り組み内容について意見を交わしました。

曾我部氏は、最初に完成した「宮城野区のみみんなの家」が出来るまでの経緯や、熊本にある規格型・本格型・プッシュ型・公民館型みんなの家の特徴に加え、建築家と協力して本格型みんなの家などの支援活動を行ったKASEIの取り組みについても紹介しました。

※KASEI:九州山口を中心とした建築系大学の学生が、居住者と協力しながら応急仮設団地の支援活動を実施するプロジェクト

日比野氏は、東北で作られた様々な形状のみんなの家や、熊本で出来た4種類と利活用を含めたみんなの家を見て、「みんなの家」は、場所に依拠して姿は変わっているが、汎用性やイメージを共有できる、必要とされている言葉なのだと感じたと話しました。



日比野克彦氏



曾我部昌史氏



■アートインフラに関するトーク内容

日比野氏は、東日本大震災後に行った「ハートマークビューイング」の活動を通じて、制作をする子どもたちやお年寄りが、色の組み合わせや貼り合わせなど1分後の作品の完成状況や、完成したものが3つ5つ集まるとどのようになるだろうかと1時間後を想像する姿をみて、止まっていた時が少しずつ動き始める姿を目撃した。1週間後のこと、1年後のことをイメージする力を刺激する力がアートにはあり、止まっていたものを動かすきっかけは、創造活動にある。災害時には生きる源になるのではないか。みんなの家もそのようなことを気づかせてくれるステージプラットフォームであると話しました。

※ハートマークビューイング:端切れの布などでハートマークをつくり、パッチワークの要領でつないでいくワークショップ。想いを形にし、復興への活力の助けになればという活動。

日比野氏は、他者との考え方の違いに気づく気持ちの交換の場には必ずアートがあると語り、曾我部氏は、コロナ禍もあり、多様な暮らし方が生み出されるこれからの社会にとってアートは重要な側面であり、他者との違いを前提に暮らしていくことを含めた、アートのあるみんなの家のかたちがこれからの公共建築のありようかもしれないと話しました。



熊本のみんなの家
[規格型・本格型] パネル



熊本のみんなの家
[利活用] パネル



熊本のみんなの家
[公民館型] パネル



宮城野区のみみんなの家
パネル



シンポジウム

◆シンポジウム

みんなの家シンポジウム みんなの家って何だろう

2022年1月23日(日) [第1部] 14:00~16:00 [第2部] 16:00~17:00

■熊本本会場 ホテル熊本テルサ1階 テルサホール

■仙台北会場 せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

■パネリストの紹介

●熊本会場

●ホテル熊本テルサ:曾我部昌史氏(総合コーディネーター)

桂英昭氏、末廣香織氏、塚本由晴氏、岡野道子氏

●益城町木山のみんなの家:

内田文雄氏、西山英夫氏

●大津町高尾野のみんなの家:千葉学氏

●西原村袴野集会所:山室昌敬氏

■ガイドス(曾我部昌史氏)

2011年の東日本大震災の被災地で16棟、2016年の熊本地震の被災地で100棟余りのみんなの家が作られ、その多くは仮設住宅団地の人々のコミュニティの場として利用されました。既に解体されたみんなの家や移設され再利用されているみんなの家もあります。東日本大震災から10年、熊本地震から5年が過ぎた今、みんなの家とは一体何だったのか、今後どのような可能性を秘めているのかを話合う場として、東北と熊本オンラインで結びシンポジウムを開催します。

■挨拶／熊本県知事 蒲島郁夫

これまでの成果を振り返り、更に飛躍するため4年に1度開催しているくまもとアートポリス建築展。今年のテーマは「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」。2011年の東日本大震災に伴い、仙台市に提供した木造のみんなの家をきっかけに熊本における災害からの創造的復興に取り組んでいます。最後にこのシンポジウムがこれからの公共建築の可能性を皆さんと一緒に考える機会になればと思っています。



曾我部昌史氏



熊本県知事 蒲島郁夫



伊東豊雄氏と奥山元市長

●東北会場

●せんだいメディアテーク:

伊東豊雄氏、山本理顕氏、妹島和世氏、柳澤潤氏、近藤哲雄氏、大西麻貴氏、百田有希氏

●相馬 こどものみんなの家:

アストリッド・クライン氏、マーク・ダイサム氏、久山幸成氏

●新浜のみんなの家:古林豊彦氏

■意見交換／伊東豊雄氏、奥山恵美子氏

二人が震災当時を振り返り、宮城野区のみんなの家の意義を語られました。

（伊東氏） 2011年の震災からスタートし、11年目となりますがその重要性は大きくなっており、その意味も変わってきている気がします。このシンポジウムで「みんなの家って何だろう」をテーマにご議論いただけたら大変ありがたいと思います。

（奥山元市長） 最初に被災地に集いの場所を作りたいといわれたときは驚きましたが、それは絶対役所ではできないこと、被災した市民の人たちが喜んでくれることならやってみようと思いました。

■事前視聴動画「みんなの家って何だろう」

「みんなの家って何だろう」を一緒に考えるヒントとなる動画をご覧ください。東北で最初にみんなの家を考えた時の経緯とその理念や毎年起こる自然災害におけるみんなの家の意味合いについて話され、次に熊本の被災地の創造的復興と位置づけ、行政主導で整備した100を超えるみんなの家とその利活用について説明されています。



ホテル熊本テルサ

■ディスカッション

●「みんなの家はどこなところ?」というテーマで、具体的な活用のされ方を伺いました。

（近藤哲雄氏）

東北の「七ヶ浜みんなの家」では、子どもたちを対象とした場所を作り、植栽を行うなど子ども以外にも自分の庭の延長として使ってもらっています。子どもたちの成長に合わせて一緒に育っていける場所を目指しました。

●東北のみんなの家と熊本のみんなの家の両方に関わられた岡野道子氏に、居心地のいい場所をどのように生み出し、どのように使われていくのか、紹介いただきました。

（岡野道子氏）

「岩沼のみんなの家」では産直販売所があるみんなの家で、農家の方と関わりをもって設計に取り組みました。また「益城町テクノのみんなの家」では、仮設住宅の入居者や町の方がみんなの家をよく知っていて、その場所の活用には可能性を感じました。居心地が良い場所を生み出すには、地域に関わる方々と一緒にすることが大事と感じました。



近藤哲雄氏



岡野道子氏



せんだいメディアテーク

●動画の中で、みんなの家でそれぞれできることを出し合いながら作っていくことの可能性を紹介されています。そのことについて、「相馬 こどものみんなの家」からコメントをいただきました。

（アストリッド・クライン氏、マーク・ダイサム氏、久山氏）

「相馬こどものみんなの家」は、建築家の知恵や材料、施工などみんなの協力によりできたものです。企業が子供たちのための施設を作りたいという思いからスタートしてきたものですが、それを市の方々が受け入れて運営していただいている状況です。



相馬 こどものみんなの家



みんなの家
シンポジウムの
様子をYouTubeで
公開しています。

●「益城町木山のみんなの家」は現在22戸に減っていますが、子どもの使う場所としてどういう活動があり、どういう場所だったのか教えてください。

(内田文雄氏)

「木山のみんなの家」では、子どもたちがサッカーをしたり、いろんな使い方をしています。今22戸が残っていますが、前にいた皆さんも集まって活動を継続されています。

(西山英夫氏)

みんなの家は当時と比較して、使われ方が大きく変化しています。その変化はいいことなのか、居心地のよさとは何かについてお話しできればと思っています。

●地域の人々の合意を作ることが必要かどうかを含め、公共建築の利用について伺います。

(山本理顕氏)

(「平田のみんなの家」を例に)みんなの家は周りとの関係で作られています。作られる場所によって作られ方が変わるのは当然だと思います。みんなが欲しいものを作る。我々が押しかけていって作るのではなく、それが合意という意味だと思います。

●熊本、九州圏内を中心とした建築関係の学生たちが、各仮設団地を担当する形で地域の事情をくみ上げて活動されたKASEIプロジェクトについて伺います。

(末廣香織氏)

私たちは仮設団地に入り、被災者の方と色々な話をしました。仮設住宅に縁や家具がないということで「ものづくり」を行いました。また同時にイベントを仕掛けるなど、「ことづくり」の活動を行いました。人は集まって色々話をすることでそこにコミュニケーションができ、コミュニティが生まれる、このことが重要と思います。

●ハードだけでなく、プロセスによる新しい建築のありようが生まれていくことの可能性について伺います。

(大西麻貴氏)

伊東事務所で宮城野区のみんなの家を考えているとき、どういうものがそこに必要なか悩みました。みんなの生の声を伊東さん個人が受け取って少しずつ形になっていく、その広がりをみんなの家の初期というものに感じました。形になったり、制度になったりするものの始まりに、その草の根的な人の思いとか、意思というのがあると感じました。

(百田有希氏)

みんなの家の設計を通して初めて対話というものから場が生まれてくることを体感しました。何か場というものが一番最初に種のようにしてあり、そこから社会が始まっていくことがあり得るかなと思いました。



益城町木山のみんなの家



内田文雄氏



西山英夫氏



山本理顕氏



●塚本さんが手がけられたみんなの家は最近できたものですが、今後みんなの家で期待している活動について伺います。

(塚本由晴氏)

公民館型みんなの家が今後どうなっていくか、私も期待しています。被災した公民館を立て直すものなので、大きく踏み出すことはないと思いますが、建物は太分違って、半外部の庇の空間で炊き出しができる臨時の避難場があり、日常使いでもいろんなことにつながっていくと思います。また、今日の皆さんの話を聞いていると普請的な側面がそれぞれの場所で起こっているんだということが分かりました。

●次のテーマとして「これからの公共建築と公共性」について、みんなすべての人が当事者として自分たちのまちを自分たちで作るという話があったと思いますがお話しただけでないでしょうか。

(妹島和世氏)

最初みんなの家を作るとき、なんでそこに作るかが問題になったのですが、宮城野区でできたということが一つの事実となって、いいかなと思えるようになりました。いろいろなタイプができてきてとても面白く感じました。また活動については、その場その場で自分たちが実際形や空間など、何か提案しながら出来たらいいなと思いました。



末廣香織氏



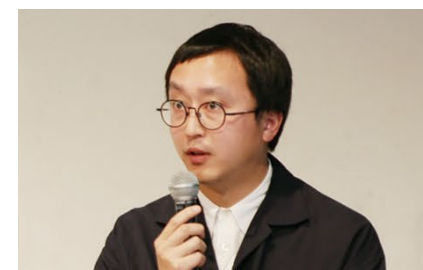
塚本由晴氏



妹島和世氏



大西麻貴氏



百田有希氏



大津町高尾野のみんなの家

●「南相馬 みんなの遊び場」の活動を前提として、地域の人たちが使う場所のありようとして民設公営という言い方をされていますが、そのことをお話ししてください。

(柳澤潤氏)

南相馬のみんなの家での活動では、民間企業にサポートいただき、最終的には南相馬市で運営していただくやり方をしています。これを民設公営と表現しています。これは塚本氏が言われた普請に近いものと思います。民間と公共が一緒に作ることができれば、この普請もその建築家に対しての姿勢として、自分たちができることは何かという視点から始まる建築の作り方があるのではないかと思います。それが、このみんなの家の作り方の発端だったのかなと思っています。



柳澤潤氏



西原村袴野集会所

●必要なものなのかどうかを確認しながら、行政はそれをあくまでもサポートする存在であるという山本理顕さんの話がありますが、熊本ではそれに一番近い形で今活動があるのがみんなの家の利活用だと思います。登壇者の中で一番詳しい桂先生にお話しただけないでしょうか。また、活用の実践ということで、西原村の袴野集会所について山室さんにお話を伺います。

(桂英昭氏)

熊本の震災の時に建てられたみんなの家の殆どが利活用されています。これが結果的にうまくいっているのは、宮城野区のみんなの家を作ったときから、住民や行政、ビルダーの方々など協力して一緒にやれたことが要因だと思います。これもある意味で普請に近いと思います。

(山室昌敬氏)

熊本地震の際には再利用を視野に入れて設計していました。ここまで多くのものが利活用されるとは思っていませんでした。袴野地区では、ワークショップ、打合せを相当やって今の集会所を作り上げることができました。



桂英昭氏



山室昌敬氏



マーク・ダイサム氏、アストリッド・クライン氏、久山幸成氏

●「宮城野区のみんなの家」を移築して「新浜のみんなの家」として使われていますが、その活用の違いを教えてください。

(平山さん／地区住民)

宮城野区の時はおじいさん、おばあさんが集まってお茶を飲んだりしていました。新浜では、フットパス活動の拠点としたり、月に1回はカフェもやっています。また女性たちで、つるしびなの会を行っています。



古林豊彦氏



千葉学氏



新浜のみんなの家

●公共建築の可能性あるいは新しい公共的な場のありようについて、大津町で考えられることを教えてください。

(千葉学氏)

大津町高尾野に来て一番驚いたのは、地域の皆さんが使い方をよく分かっていることです。当事者としてみんなの家を使うし、維持していくという意思が大変強く感じられました。何か実際に作る時の当事者と使う人たち、地続きで見えることが大変僕にとっては、幸せなことだと思いました。





（府内さん／地区住民）

地区にはお年寄りだけでなく、若い人もかなりいます。人が集まり遊びながら、また学びながら楽しむため、千葉先生と何度もディスカッションを行い、使いやすい場所を作っていただきました。この前までは、お年寄り子どもたちとの食事会やお年寄りの運動の場として利用していました。今後は子どものクリスマス会、七夕、どんどやなどの行事をやっていきたいと思っています。

（曾我部昌史氏）

多くの方が、自分が住む地域の当事者意識を持ちながら、地域に必要なもの、地域の課題を解決しながら作っていくことの可能性が確認できました。そのこと自体は、単に建築を作ることではなく、社会を作ることでもあり、地域を作ることでもあると感じました。



●妹島和世氏への質問

（質問）みんなの家のキックオフミーティングの時に、未曾有の大震災直後とあり、建築家として何ができるか、建築が有効か、という気持ちを吐露されていた記憶があります。この10年で気持ちの変化はありましたか。

解答（妹島氏） 今日みんなで話しているようにプロセスも含め、当事者であることをみんなが覚えていることが重要だと思います。自分たちが街を作っているし、これからの未来も作っていくという拠り所をみんなが持っています。こういう活動からそれをまた見える形で作っていったことはすごくよかったと思います。



●最後に伊東豊雄氏から一言

大変広範囲に渡るご意見が出たけど、つまるところ僕の関心は、このみんなの家は公共建築足りうるのかという問題です。実際に、東北の方では、建築家が寄付を募ったりしながら、もちろん公共の自治体の方から、土地の提供を受けたり、それから管理をさせていただいたり、いろいろお世話にはなっているのですが、建築家側或いは住民の利用者の側が、自主的に何かこういう建築を作りたいというところからスタートしてそれを自治体が受け入れた。これは普通の公共建築ではありえない形だと思います。それを見た上で、熊本ではそういう形をできるだけやわらかい公共のスタイルとして、実現できないだろうかという方向に変わっていったと。ある程度このスケールで限って言えば、公共的な建築が実現したということになるわけですが、そこで東北と熊本との大きな違いは、かなり東北では建築家の個性がそのまま表現になっていると。それに対して、熊本では、ほとんどのみんなの家が同じような切妻のスタイル、切妻の木造建築になっている。この違いは一体何だろうかという問題ですね。それは、熊本ではほとんどすべてが、仮設住宅の中で作られたということが大きいとは思いますが、この熊本でできていったようなものが果たして、一つの収斂するタイプとしてのみんなの家であるのかどうかということももう一度検証してみないといけないと思います。その時に、共通するのは、従来の集会室、或いは談話室、或いは公民館というものが、機能という概念によって分節されていたのに対して、みんなの家ではほとんど一体型の空間になっていた。そのことによって様々な活動が許容できるようになったし、非常に皆さんの親し

い或いは居心地のよいものになっていったということがあるのではないかと。ただし僕は公民館と集会室は、結局は同じものでいいのかどうかということも本当は何って見たかったわけですが。もう一つは、柳澤さんが民設公営というふうに言われて、それがみんなの家では、かなり普請というような形をとって、うまくできているケースがあるわけですが、これがちょっとスケールを変えて大きくなってきたときに、果たしてどうなるだろう。僕は少し大きなスケールで、例えばPFIというような方式、或いはデザインビルドというような方式に変わっていったときに、みんなの家を作るほど、みんなが何か普請をするような、楽しい雰囲気でもないし、或いは、みんなの、何か一緒に物を作っていくという雰囲気でもない。やはり、経済というものが圧倒的に独占されたような社会の中で物を作っていく。このギャップをどう考えたらいいのかということは非常に大きな問題であるというふうに、今日は感じておりました。しかし、非常に小さなスケールですけれども、みんなの家っていうのは、新しいタイプの公共の入口というか、一つの端緒を形成しつつあるということは素晴らしいことだと思っています。特に近藤さんが、みんなの家を自分の家の庭の延長、この自分の家というふうに感じるってことがすごく大事なことだと僕は思うんです。みんなの家とはまさしくみんなにとってのリビングルームであり、みんなにとっての、住宅なんだから、それを利用する人たちが自分の家の延長として使うということ、そういう気持ちを持てるかどうかというのは、このみんなの家が、これから発展していけるかどうかという時に、大きな意味を持つように思います。

◆シンポジウム
みんなの家シンポジウム みんなの家って何だろう

熊本会場

第二部：みんなで語ろう!熊本みんなの家ネットワーク

■概要

熊本会場では、末廣香織氏の司会により、「みんなで語ろう!熊本みんなの家ネットワーク」をテーマにYouTubeからの質問も含め、ディスカッションを行いました。

■ディスカッション

○第一部を終えた感想や意見、また地域の方、設計者、施工者、管理者などのつながりについて伺います。



末廣香織氏(総合コーディネーター)



(内田氏)

誰が主役か、どういうものを作るのか、住民の力、住民の合意の形成を保証されながら、公共建築を作っていくべきだと思います。

(西山氏)

居心地の良さとか、利他とか、みんなとか、それがどういう言葉か問い直し、そこから見えるとか感じられるものがあるような気がします。

(千葉氏)

公共建築を考えるうえで、住民一人ひとりが当事者と思って行動することがかなり大きなことだと思います。

(山室氏)

地元のローカルの設計事務所として公共の業務と有事のときの業務とは、取組み方がちがう。その特殊すぎるちがいに、悩ましく感じて業務をやってきました。

(塚本氏)

社会がどこにあるかではなくて自分たちが社会であるという、当事者として考えていく時代になるのではないかと思います。

(岡野氏)

当事者性について、また居心地の良さや個性について話されています。公平性を確保するという前提があると何か当事者性が薄れるように感じます。

(曾我部氏)

人口が増え、経済が成長する時代では、公共建築を問題なく作る仕組みが制度化されているが、災害対応のみんなの家での経験が、新しい可能性を開いていくことを期待したいと思います。

(桂氏)

みんなの家の利活用を見て、建築家が関与しない、行政とビルダーマインドの設計で生まれているのを楽しみにしていて、それを建築家の人がどう思うか、見ていきたい。



■オンライン質疑

○みんなの家と公民館は、はたから見ると似ている側面がある。今後はその関係が集約か、機能が分かれるのか、どう思われますか。

(山田さん/地区住民)

地域の人にとっては、自分たちが地域の中でどうコミュニケーションを形成していくのかが大事です。公民館、集会所、みんなの家であるとかは問題ではないと思います。

○これからの公共建築は、公園のようにそれぞれ多様な使い方を受け入れるようになると思いますが、いかがでしょうか。

(塚本氏)

地域資源をみんなで維持管理していくことに公共も関わる仕組みを考えていかなければならないと思います。

(桂氏)

仮設住宅の配置やみんなの家の利活用も含め、税金を使う建築には制限があります。その制限を破るには事例ができること。それは次の進化につながると思います。

(内田氏)

過疎の自治体では地域のまとまりの単位を見直しが必要。地域社会を作り直していくことを考えていかなければならない。

■まとめ

(末廣氏)

みんなの家をきっかけに、現代社会を考えることになったと思っています。明治以降、ずっと近代化で世の中が進み、社会の効率化、経済の活性化ということが中心に動いてきたと思います。ただ、一方でみんなの家は、そういう現代にあって地域の人の繋がりであるとか、みんなで建築を作るという経験を思い出させてくれたなと感じています。

みんなで考えて、みんなで協力して作るというのが震災ということをきっかけに、ある種の社会実験になっていると思いました。また、公共建築に当事者意識を取り戻すことができれば、新しい形の民主主義のあり方もできてるのかなと思います。



大津町高尾野のみんなの家



益城町木山のみんなの家



西原村袴野集会所

◆シンポジウム
みんなの家シンポジウム みんなの家って何だろう

東北会場

第二部：新しいみんなの家を作ろう

■概要

仙台会場では、柳澤潤氏の司会により、「これからのみんなの家」をテーマに会場からやオンラインでの意見や質疑を交えながら「相馬 こどものみんなの家」、「新浜のみんなの家」のオンライン会場を含め、ディスカッションが行われました。

■ディスカッション

会場からは、「熊本へ何度か足を運んだ際、熊本のみんなの家がかなりの数利活用されていることに衝撃を受けた。」「東北のみんなの家は多様な形があるが、伊東豊雄氏が最初に提示した宮城野区みんなの家は、派手さがなく建築の原型の様に感じた。」という話がありました。また「新浜で利活用され、住民の方が楽しそうに活動している話を聞くことができたが、最初に作った際に一番大事にしたものは何か。」との質問が出ました。



(伊東氏) 宮城野区で作るみんなの家は、作品でなくてもいいのではないかな。住民の話を聞いて、要望をとにかく全部取り入れ作った。結果的に住民に凄く喜んでもらえ、仮設住宅がなくなった時にも、移築して使用したいという声になっていったという経験がありました。

(山本氏) 釜石市平田のみんなの家について、夜に真っ暗な仮設住宅団地に、大きなぼんぼりのような灯りをつくり、そこへ行けば誰かに会えるそんな建築を作りたかった。昼間でも屋根をかけると暗くなってしまうため、テントを使用したけど、冬場に寒くなってしまうため、冬仕様・夏仕様と分け、年に2回スタッフと住民の方と作業を行いました。



(奥山元市長) 災害が起こった際に、行政が行うことは基本的に法律に則り四角四面の決まりきったことしかできませんが、住民の方は一人一人全く違う生き方や考え方を持っています。みんなの家の様に四角四面じゃなく、一人一人の人生の断片的なものでもすくいあげることができ嬉しく思います。

(山本氏) 伊東さんの「みんなの家は公共建築にたり得るか」という問いが本質的だと思います。行政が作ったから公共建築ではなく、みんなの家は一人一人が参加してみんなで決め、公共性を得ているため、最もモデルに近い公共建築です。そこには、さらに持続性や金銭を誰が維持するのか、誰が作るのかということも含め、一人一人が考えて参加することが重要で、この仕組みは、建築が大きくなっても可能性はあると思います。

(柳澤氏) 今日会場に来た方、オンラインで視聴している方も、これから私たちが私たちのみんなの家を作る仲間であると考えて、いろんな意見をHOME-FOR-ALLに寄せてほしいです。経済や資本の波に飲まれる前に、何かもう少し自分にできることを共有し、明日のみんなの家を一緒に考えていきたいと思います。

今日の「みんなの家は公共建築にたり得るか」という問いに関していうと、みんなの家は公共建築そのものであると考えていければと思います。



みんなの家シンポジウム東北2部の様子をYouTubeで公開しています。

協賛事業

令和3年度「浸水住宅復旧のための講習会」

- 主 催：熊本県、一般財団法人熊本県建築住宅センター、公益社団法人熊本県建築士会、一般社団法人熊本県建築士事務所協会
- 日 時：①令和3年(2021年)7月2日(金)
14:00～16:10
②令和3年(2021年)7月3日(土)
9:50～12:00
- 会 場：①ホテル熊本テルサ(テルサホール)
②山鹿市民交流センター
- 内 容：浸水被害を受けた住宅等の適切な応急措置などを建築関係者に周知し、被災者等の速やかな暮らしの再建を図ることを目的とし、全国の被災地で技術系ボランティアとして活動する風組関東の代表の小林直樹氏と令和2年7月豪雨で浸水住宅の相談対応に当たった熊本県建築士会人吉支部の久保田氏を招いて講習会を実施した。
- 来場者数：108名



第32回熊本の建築家作品展

- 主 催：公益社団法人日本建築家協会九州支部熊本地域会
- 日 時：令和3年8月3日(火)～令和3年8月8日(日)
- 会 場：県立美術館分館 展示室1(1階)
- 内 容：JIA会員及び熊本の若手建築家の作品パネルや模型を展示。8月5日にはJIA九州支部長と若手建築家によるトークセッションを開催。
- 来場者数：185名

「くまもと型伝統構法を用いた木造建築物設計指針・同解説（第2版）」講習会
「くまもと型伝統構法構造設計入門」

- 主 催：熊本県・一般社団法人熊本県建築住宅センター・くまもと型木造伝統構法普及検討委員会
- 日 時：令和3年8月5日(木)10:00～16:30
- 会 場：熊本県庁 地下大会議室
- 内 容：木造伝統構法の普及促進を目的として、「くまもと型伝統構法を用いた木造建築物設計指針・同解説」を策定しており、建築設計者等に対して本設計法の習得を図るための講習会
- 来場者数：35名



第44回建築士事務所全国大会(熊本大会)

- 主 催：一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
- 主 管：一般社団法人熊本県建築士事務所協会
- 日 時：令和3年10月1日(金)
- 会 場：熊本城ホール 4階メインホール
- 内 容：(1)基調講演 伊東 豊雄 氏 (2)パネルディスカッション
(3)大会式典 (4)くまもとアートポリスパネル展 他
- ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、来年度へ延期。

湯前まんが美術館企画展 — こうの史代の世界 —
「ギガタウン イン テラタウン」

- 主 催：湯前町教育委員会
- 日 時：令和3年9月18日(土)～令和3年12月19日(日)
- 会 場：湯前まんが美術館
- 内 容：竣工から30周年を迎える「くまもとアートポリス建築」の中で
で行う展覧会
- 来場者数：377名



「あやすぎを使った家づくりの未来を考える」シンポジウム

- 主 催：鹿本地域森林・林業振興協議会
- 日 時：令和4年(2022年)1月26日(水)13:00～16:00
- 会 場：山鹿市民交流センター
- 内 容：(1)講演 東京理科大学教授 高橋 治 氏
「生きている地球に寄り添う建築技術～建物を恋して 暮らしを育む～」
(2)パネルディスカッション
「あやすぎを使った家づくりの未来について」
- 来場者数：※動画配信視聴者:173名以上



建築展を終えて

曾我部 昌史



「くまもとアートポリス建築展(以下、建築展)2021」は、後述のとおり多くの人たちがかわりながら全国的に展開をする広がりのあるものだった。最終的には、この先に繋がる議論を共有し終えることができたわけだが、関係者全ての丁寧で精力的な尽力により実現したといっていだろう。前回の建築展は元々2016年度に開催される予定だったが、熊本地震発災により2017年度に延期となった。2020年度に本来の開催年として今回の建築展の開催を予定していたものの、今度は新型コロナウイルス感染症への対応から今年度の開催となった。日程によっては更なる延期となる可能性もあったことを考えると、多くの成果を納められたことは関係者みんなにとって幸運でもあった。

今回の建築展でも、シンポジウムと展覧会がプログラムの中心的な骨格をつくったが、そのあり方は例年とは異なる。建築展2021のテーマは「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」である。最近の日本では、震災や水害が毎年どこかで起こる。建築展でも熊本で起こっていることを熊本から発信するという従来の形式からあらため、シンポジウムでは全国を繋ぎ、展覧会は全国を巡回し、そのテーマの元にした議論を広く問うた。

シンポジウムでは東日本大震災以降東北各地でみんなの家を手掛けてきたHOME-FOR-ALLと連動した。多くの場所や人びとを繋ぎ、大きな広がりのある議論が進められた。具体的には、東

北と熊本のみんなの家で進められてきた試みを通しその意義や課題を共有した。そしてそこから浮かび上がる次代に繋がる可能性に向けて、みんなが強く意識を持つことのできる議論となった。特に、この先の公共建築の役割や位置づけ方については、より積極的に意識する必要があると、参加者も聴衆もみな心に刻んだことだろう。新たな公共建築のありようについて、深く探求を重ね、小さな物も含め各地で継続的に実践されることに期待したい。KAPはその可能性に接続しうる、大切なプラットフォームの一つでもある。

巡回展での展示は、多種多様なみんなの家の実践を中心に最近のKAPプロジェクトを加え、パネルと模型で構成された。東京、熊本、仙台の3都市を回った。コロナ禍の影響もあり、東京展では展示内容を絞ることとなったが、地下鉄コンコース内のスペースを用い、これまでKAPが発信できていなかった層にも活動を伝えることができた。

私自身は、熊本市現代美術館にて日比野館長とのトークイベントに参加した。それぞれの日々の活動や暮らし方が、災害時に求められる状況へ対応できるかたちのものになっていくような未来を考えるきっかけとなった。このことはシンポジウムで考えることとなった、これからの公共建築がどのようなものになっているべきなのかという思考とも接続する。次回建築展ではどういった実践を共有できるだろうか。楽しみである。



参考資料

チラシ・広告物

内容

くまもとアートポリス巡回展 A4 変形 チラシ
くまもとアートポリス建築展 2021 リーフレット
くまもとアートポリス建築展 2021 A2 ポスター
展覧会トークイベント A4 チラシ
みんなの家シンポジウム A4 チラシ

仕様	部数
A4判変形	8,000
A3判2つ折り	6,000
A2判	250
A4判	1,700
A4判	6,500

開催告知ポスター



くまもととアートボリスでは、東日本大震災の際に行った、被災者の憩いの場となる「みんなの家」の整備支援をきっかけに、その後の災害において、「みんなの家」を中心に人々ととのつながりを大切にしたい復興に取り組みてきました。

全国で災害が発生する中、復興する熊本を全国に向けて発信し、被災された方や復興に携わる方々にエールを送るべくくまもとアートボリスは2021年、を開催しました。

イベントスケジュール

2022年

1月23日

14:00 - 17:00

参加費
オンライン
要あり

みんなの家シンポジウム

～未来と未来を拓くために～

【テーマ】
熊本・ホテルメトロポリス（熊本市）
東北/せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）

【熊本・ホテルメトロポリス】

司会 佐々木 真由美

出演 佐々木 真由美 菅原 健史
 佐々木 真由美 佐々木 真由美
 佐々木 真由美 佐々木 真由美

内田 文雄 西島 秀和

【熊本県知事】
 宇野 浩二

【熊本県知事】
 佐々木 真由美

【東北/せんだいメディアテーク】

司会 佐々木 真由美

出演 佐々木 真由美 菅原 健史
 佐々木 真由美 佐々木 真由美
 佐々木 真由美 佐々木 真由美

内田 文雄 西島 秀和

【東北/せんだいメディアテーク】
 佐々木 真由美

2021年
2022年

10月22日(金) ▶ 11月26日(水)

くまもとアートポリス巡回展

東京

2021年
10月22日(金) ▶ 10月28日(木)

会場 日本橋現代美術館 新館5階ロビーイベントスペース

熊本

2022年
11月3日(土) ▶ 11月16日(日)

会場 熊本市現代美術館 非常設記念ギャラリー・ギャラリーⅢ

展覧企画主催イベント

11月27日(土) 13:00-14:00

「ここからの公共建築、実習者のアートインフラを考える」

仙台

2022年
11月23日(土) ▶ 11月26日(水)

会場 仙台市現代美術館 新館5階ロビーイベントスペース

伊豆

2022年
11月23日(土) ▶ 11月26日(水)

会場 伊豆市現代美術館 新館5階ロビーイベントスペース

主催 熊本県、くまもとアートポリス建築展2021実行委員会

くまもとアートポリス建築展2021実行委員会 事務局(熊本県建築課内)
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820 E-mail:kap@pref.kumamoto.lg.jp
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水戸町6丁目18番1号

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、イベント等が変更になることがあります。

くまもとアートポリス建築展2021

自然災害が
頻発する社会を
どう生きるか

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ART POLIS

巡回展チラシ

くまもとアートポリス巡回展
——みんなの家、後世へつなぐ復興——
くまもとアートポリスでは「みんなの家」を中心に人と人とのつながりを大切にしたい復興に
取り組んできました。「みんなの家」のこれまでも振り返りながら、これから「みんなの家」
が抱う役割を考えるとともに、復興する街の姿を全国に発信する機会をも創出します。

東京会場

東京・日本武道館（東京都）
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-3-3
有明コロシアム2階（東京都）
〒135-0063 東京都江東区有明2-2-1

熊本会場

熊本県立美術館
〒961-8501 熊本県熊本市東区下馬場
ホテルグランド
〒961-8501 熊本県熊本市東区下馬場2-2-1

仙台会場

せんだいメディアテーク
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1
宮城野宮会堂（宮城県）
〒981-0821 宮城県仙台市青葉区中央2-1



会場地図

展覧会企画トワイベント

★「ふたつのアートの世界」をテーマに、東京・熊本・仙台の3会場、それぞれで、
「これらのアートは、どこで見たのか？」
「実習時のアート・オンライン」を考える。」
【東京会場】（日本武道館）
※ 日 2021年11月27日（土）13:00～14:00
※ 日 2021年11月28日（日）13:00～14:00
※ 日 2021年11月29日（月）13:00～14:00
※ 日 2021年12月1日（水）13:00～14:00
※ 日 2021年12月2日（木）13:00～14:00
※ 日 2021年12月3日（金）13:00～14:00
※ 日 2021年12月4日（土）13:00～14:00
※ 日 2021年12月5日（日）13:00～14:00
※ 日 2021年12月6日（月）13:00～14:00
※ 日 2021年12月7日（火）13:00～14:00
※ 日 2021年12月8日（水）13:00～14:00
※ 日 2021年12月9日（木）13:00～14:00
※ 日 2021年12月10日（金）13:00～14:00
※ 日 2021年12月11日（土）13:00～14:00
※ 日 2021年12月12日（日）13:00～14:00
※ 日 2021年12月13日（月）13:00～14:00
※ 日 2021年12月14日（火）13:00～14:00
※ 日 2021年12月15日（水）13:00～14:00
※ 日 2021年12月16日（木）13:00～14:00
※ 日 2021年12月17日（金）13:00～14:00
※ 日 2021年12月18日（土）13:00～14:00
※ 日 2021年12月19日（日）13:00～14:00
※ 日 2021年12月20日（月）13:00～14:00
※ 日 2021年12月21日（火）13:00～14:00
※ 日 2021年12月22日（水）13:00～14:00
※ 日 2021年12月23日（木）13:00～14:00
※ 日 2021年12月24日（金）13:00～14:00
※ 日 2021年12月25日（土）13:00～14:00
※ 日 2021年12月26日（日）13:00～14:00
※ 日 2021年12月27日（月）13:00～14:00
※ 日 2021年12月28日（火）13:00～14:00
※ 日 2021年12月29日（水）13:00～14:00
※ 日 2021年12月30日（木）13:00～14:00
※ 日 2021年12月31日（金）13:00～14:00

シンポジウム

★「ふたつのアートの世界」をテーマに、東京・熊本・仙台の3会場、それぞれで、
「これらのアートは、どこで見たのか？」
「実習時のアート・オンライン」を考える。」
【東京会場】（日本武道館）
※ 日 2021年11月27日（土）15:00～16:00
※ 日 2021年11月28日（日）15:00～16:00
※ 日 2021年11月29日（月）15:00～16:00
※ 日 2021年12月1日（水）15:00～16:00
※ 日 2021年12月2日（木）15:00～16:00
※ 日 2021年12月3日（金）15:00～16:00
※ 日 2021年12月4日（土）15:00～16:00
※ 日 2021年12月5日（日）15:00～16:00
※ 日 2021年12月6日（月）15:00～16:00
※ 日 2021年12月7日（火）15:00～16:00
※ 日 2021年12月8日（水）15:00～16:00
※ 日 2021年12月9日（木）15:00～16:00
※ 日 2021年12月10日（金）15:00～16:00
※ 日 2021年12月11日（土）15:00～16:00
※ 日 2021年12月12日（日）15:00～16:00
※ 日 2021年12月13日（月）15:00～16:00
※ 日 2021年12月14日（火）15:00～16:00
※ 日 2021年12月15日（水）15:00～16:00
※ 日 2021年12月16日（木）15:00～16:00
※ 日 2021年12月17日（金）15:00～16:00
※ 日 2021年12月18日（土）15:00～16:00
※ 日 2021年12月19日（日）15:00～16:00
※ 日 2021年12月20日（月）15:00～16:00
※ 日 2021年12月21日（火）15:00～16:00
※ 日 2021年12月22日（水）15:00～16:00
※ 日 2021年12月23日（木）15:00～16:00
※ 日 2021年12月24日（金）15:00～16:00
※ 日 2021年12月25日（土）15:00～16:00
※ 日 2021年12月26日（日）15:00～16:00
※ 日 2021年12月27日（月）15:00～16:00
※ 日 2021年12月28日（火）15:00～16:00
※ 日 2021年12月29日（水）15:00～16:00
※ 日 2021年12月30日（木）15:00～16:00
※ 日 2021年12月31日（金）15:00～16:00

みんなの家シンポジウムチラシ



HOME FOR ALL SYMPOSIUM

2011年の東日本大震災の被災地では16棟、2016年の熊本地震の被災地では100棟余りの「みんなの家」がつかれました。それらの多くは仮設住宅団地の人々のコミュニティの場として利用されてきたが、既に解体された家や移設された、利用されない家もあつた。東日本大震災から10年、及び熊本地震から15年が過ぎた今、「みんなの家」とは一体何だったのか、今後どのような可能性を秘めているのかを、熊本と東北をオンラインで結んで語合うシンポジウムを開催します。



日時・プログラム		
2022年1月23日(日)	Part1:14:00-16:00	みんなの集って何だろう
	Part2:16:00-17:00	熊本会場——みんなで語ろう!熊本みんなの家ネットワーク 東京会場——飯!いみんなの家をつくる

申込フォーム・問い合わせ先 申込期限:2022年1月22日【土】17:00迄

熊本 https://tmp.co.jp/obuo くまもとアート・アース事務所 (熊本県荒尾市内) 〒860-0073 熊本県荒尾市大町4-16-1 Tel: 096-333-2537 Fax: 096-344-9820 Mail: ksp@pref.kumamoto.jp	東北 http://www.home-for-all.org/symposium 特定非営利活動法人 HOME-FOR-ALL 〒157-0073 東京都目黒区山手66-27 17号基盤 Tel/Fax: 03-3416-2308 Mail: info@home-for-all.org
---	---

[illegible]

リーフレット



展覧会企画トークイベントチラシ



掲載記事

内容

[illegible]

新聞社	掲載日
熊本日日新聞	2021/11/28
くまにちすぱいす	2021/11/19
市政だより	2021/12 号
熊本日日新聞	2022/1/6
くまにちすぱいす	2022/1/14
西日本建設新聞	2022/1/28
朝日新聞（宮城版）	2022/1/21
朝日新聞	2022/1/22
朝日新聞	2022/1/24
朝日新聞（宮城版）	2022/1/24
日刊建設工業新聞	2022/1/28
相模原市公式ホームページ	2022/1/23
新建築	2022/3 月号

「アートは生きる力に必要」

熊本市現代美術館 建築家と意見交換



27日、熊本市中央区の市現の曾我部昌史さんと、同館

(川野千尋)

トークイベント

熊本日日新聞 2021/11/28

「みんなの家」活用例
パネルや模型で紹介

市現代美術館 16日まで



熊本や東北の「みんなの家」の取り組みを紹介している「くまもとアートポリス建築展」の会場＝熊本市中央区

被災地の仮設施設は、利用
された空き店舗を転用し
た。被災者らは、大規模な
火災で家を失った人々の
ために、被災地から避難
が、熊本中央区市現代
美術館の近くにある。県
道が2年に1度閉鎖「くま
もと」トリス「くまも
と」建築家の取組で、東
北や札幌、映像約50点
で伝えている。16日まで
入場無料。

「みんなの家」は、建業
家「K&Cコンシショナ
ルの伊東寛孝さん」東京が、
東北大震災後に、被災者
安らぎの地をつつと完

案「熊本県山形産花を提供
した第1号仙台産花に完成
つ」。その後北3地区へ注
つた。県内は3県津江
後には「親類」との役を生
かした「親類」と、住民
の意見を聞いて設計した
棟が建てられ、木造平屋
の本格型。など木造さ
本格的。など木造さ
県内は全面ガラス張り
・本棚や大きな椅子
介が説かれた海産品を紹
介。仮設施設の閉鎖後も、
新築の大規模の廃屋や放
置された児童車などを活用
して例をあげて

「建設講座」：災害の防
府コミュニティの生じた
場として被災者を救済添
えさせ取り囲む。需要の
見直しなども行う。知ってほ
しいこと

熊本と東北オーストラリ
ンで学び、みんなの家につ
携った建築家が語る会
シンポジウム(2月18日午後2
時)では、熊本中央区のボ
テ、熊本100人無制限だ
る。定員100人。無料で
が前申し込が必要。オス
トラリア配がある。同講座
966-3333 (魚住有佳)

展覧会

熊本日日新聞 2022/1/6

「みんなの家」を通して復興する熊本の姿を発信
「くまもとアートポリス巡回展」を開催中

主催／熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会

くまもとアートポリス建築展



開放感のある広々とした会場で、小さなお子さんも一緒に見学できます

熊本独自の豊かな生活空間を創造することを目的に県が行っているくまもとアートポート事業（一）環として、「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」がテーマのイベント「くまもとアートポート建築展2022」が開かれています。

同展に関する問い合わせは☎096-3333-2537（熊本県建築課内）まで。

■アートポリス巡回展
 来年1/16(日)まで、向
 現代美術館で復旧に向か
 う現代の姿をさまざまに発信
 する展覧会「まともとア
 ートポリス巡回展」を開
 催中。東日本大震災や熊
 本地震で孤独を感じてい
 る被災者のため、心さ
 ら空間を提供したいと、
 みんなの家、その取り
 組をパネルや映像模
 型で振り返り、これから
 の役割について考えます。
 ついでに話します。

■トクイベント
 11/27(日)13時、これ
 らの公共建築、災害時
 のアートインフラを考え
 ると題し、市営美術
 館でトークイベントも実
 施要申し込み。同美術
 館館長、白比亮先生ら
 と、くまもとアートポリ
 スアドバイザー、曾我部
 昌弘さんが、自然災害か
 らの復興において、アー
 トと建築が果たす役割に
 ついて話します。

開催中～来年1/16(日)
くまもとアートポリス巡回展
みんなの家、後世へつなぐ復興

無料



期 ※火曜日、年末年始(12月28日～
来年1月4日)休館 **時** 午前10時～午
後8時 **場** 現代美術館 井手宣通記念
ギャラリー・ギャラリーⅢ **内** 「みんな
の家」を中心に、復興する熊本の姿を
全国に発信する展覧会
(現代美術館 ☎278-7500)

巡回展
市政だより 2021/12月号

熊本と東北をオンラインでつないでディスカッション
「みんなの家シンポジウム」参加者募集中

主催／熊本県・くまもとアートポリス建築展2021実行委員会・NPO法人HOME-FOR-ALL

くまもとアートポリス建築展 検索

2022年1月23日 [日]
参加費無料・要事前申込・先着順(オンライン配信有)

本会場
館主：おたけ恵子先生1階ナチュラール(参加定員：100名程度)
副主：せんだいメディアテーク1階オープンシアター(参加定員：80名程度)

ライブ配信 (15分前開始・オンライン参加の可)
会場：滋賀県立美術館のホール
配信：滋賀県立美術館のホール、滋賀県立美術館のホール、滋賀県立美術館のホール
配信：滋賀県立美術館のホール、滋賀県立美術館のホール

HOME FOR ALL SYMPOSIUM

【みんなの家シンポジウム】
 日時:2022年1/23(日) 14時~17時
 参加費:無料
 会場:ホテル熊本テルサ(オンライン)
 締め切り:2022年1/22土17時まで
 申し込み方法:左記QRコードにアクセス
 ※オンライン参加も要事前申し込み

熊本市独自の豊かな生活空間を創造することを目的に、県が行っていることと、まもとアートポリス事業の一環として「自然災害が頻発する社会でどう生きるか」がテーマの「くまもとアートポリス建築展2021」を実施しています。熊本市現代美術館で1/16日まで巡回展が行われている他、シンポジウムも開催されます。

■シンポジウム開催
東日本大震災や熊本地震の被災地で孤独を感じている被災者のため、心安らぐ空間を提供してきたいんなの家。その役割や、今後の活用方法・可能性について話し合う「みんなの家シンポジウム」が2/14(日)14時〜16時、津田町高尾野のみんなの家、第一部では、熊本と東北をオンラインでつないでディスカッション。第二部では、熊本会場のみをつなぎ、熊本とみんなの家について話し合います。いずれも無料。会場はホテル熊本テラス、オンラインでの参加も受け付けています。当日はみんなの家」に関する建築家も益城町本山と太津町高尾野のみんなの家、西原村袴野集会所や東北からオンラインで参加します。事前に申し込みください。
問い合わせは ☎099-2537(熊) 県建築課内まで。

【参加OK】
※、必要事項を入力後送信

「みんなの家って何だろう」

なきシンポ

加。熊本会場は、ほぼ型口ノナ
拡大の影響で、無観戦開催に
なったが、会場の様子にはネ
ッパ配信された。

みんなの家は、11年の東
日本大震災で6棟、16年の
熊本地震で1000棟あまり
が造られた。その多くが仮設
住宅団地に注ぎ被災者のコ
ミュニティの場として利用
された。すでに解体された
家や、移設、再利用されて
いる家もある。

シンポジウムでは、建築
家たちが当時の状況や設計
の進め方、仮設団地がなくな
った後の活用の方考え方
などを紹介。「みんなを巻
き込んでいく」普請的な側面
が大事」「自分たち（建築
家）ができることは何とい
う視点から始まる建築の造
り方」「単に建築を造るの
ではなく、地域や社会を造
ることでもある」と意見が
あった。伊東氏は、東北
北と熊本のみんなの家の違
いや共通点を指摘した上
で、「小さなスケールだが、
新しいタイプの公共建築の
端緒を形成しつつあること
は素晴らしい」と結んだ。

2部では、熊本会場で
「みんなで語ろう！熊本み
んなの家ネットワーク」、
東北会場で「新しいみんな
の家をつくらう」と題し、
みんなの家の未来について
それぞれディスカッション
した。

シンポジウム
西日本建設新聞 2022/1/28

トークイベント
すぱいす 2021/11/19

シンポジウム
くまにちすぱいす 2022/1/14

被災者の心ほぐす「みんなの家」

熊本の支援で仙台に初
「みんなの家」は、被災者の心をほぐすための場。被災者の心ほぐす「みんなの家」は、被災者の心ほぐすための場。被災者の心ほぐす「みんなの家」は、被災者の心ほぐすための場。

東日本大震災を契機に建てられた集会所「みんなの家」の可能性について考えるシンポジウムが、23日に仙台市などで開かれる。熊本の支援を受けて、2011年秋、仙台に初めて建てられたもの。その後、東北各地や災害が相次いだ熊本に広がっていった。被災者たちの憩いの場となった1棟目を訪ねた。

熊本の支援で仙台に初
「みんなの家」は、被災者の心をほぐすための場。被災者の心ほぐす「みんなの家」は、被災者の心ほぐすための場。被災者の心ほぐす「みんなの家」は、被災者の心ほぐすための場。

お茶会 散策拠点「交流進み感謝しかない」

可能性探るシンポ あさって仙台・熊本

シンポジウム
朝日新聞（宮城版） 2022/1/21

シンポジウム
朝日新聞 2022/1/22

「みんなの家」とは何か

熊本と東北各地 オンラインで建築家らシンポ

「みんなの家」とは何か。熊本の被災地へ、人々が憩う場として建てられた「みんなの家」について、建築家らシンポジウムが、23日に仙台市などで開かれる。熊本の被災地へ、人々が憩う場として建てられた「みんなの家」について、建築家らシンポジウムが、23日に仙台市などで開かれる。

「つくること自体 被災地支援」

シンポジウム
朝日新聞 2022/1/24

シンポジウム
朝日新聞（宮城版） 2022/1/24

「みんなの家」役割と今後 仙台 建築家らがシンポ

東日本大震災後に建築家の伊東豊雄さんの提案で建てられた集会所「みんなの家」について語り合うシンポジウムが23日、仙台市青葉区であった。伊東さんは「新しい建築の形をひらくかもしれない」という気持ちで提案した。みんなの家が、新しい公共の端緒を形成しつつあるのは素晴らしい」と話した。

みんなの家は2011年10月、宮城野区に初めて建てられた。その後、東北各地には計16棟が建てられ、うち2棟は解体されたが、多くが今も利用されている。

建築家たちは、それぞれにみんなの家への思いを語った。

岩手県釜石市に建てた山本理顕さんは「みんなの家は『活動』だ」と思う。さらに、東北各地には、建築家たちの役割はない。東松島市などの3棟に携わった妹島和世さんは「みんなが当事者だと思えるのがすごく重要。使う人が色んな風に発展していける方が創造的だ」と話した。

震災当時、仙台市長だった奥山恵美子さんも参加し、「災害時の行政は決まってきたことしかできない。みんなの家は一人ひとりの人生の断片をすくいあげる」と述べた。

伊東さんは最後に「災害の時には一つになれる。11年経って平常状態に戻った時に、みんなの気持ちが一つになれるだろう」と、聴衆に問いかけた。

シンポジウムは、宮城野区や福島県相馬市、熊本県内各地のみんなの家などもオンラインで結んで開催された。

会場には、市民ら約60人が集まった。建築を学ぶ東北工業大学3年、小川珠湖さん（21）＝名取市＝は「これからは、奇抜なデザインだけではなく、心のよりどころになる建築について考えていきたい」と話した。（三井新）



みんなの家について語り合う伊東豊雄さん（左）と奥山恵美子さん＝仙台市青葉区

シンポジウム
日刊建設工業新聞
2022/1/28

伊東豊雄氏らが今後の可能性議論 宮城、熊本で「みんなの家」シンポジウム

東日本大震災や熊本地震などの被災地で住民らが集まる場を建築家の支援でつくる「みんなの家」プロジェクトをテーマにしたシンポジウム「みんなの家って何だろう」が23日、宮城と熊本の阿部市内で開かれた。みんなの家が果たした役割や今後の可能性を、同プロジェクトをけん引した伊東豊雄氏をはじめとする建築家らが議論した。

主催はNPOのHOME-FOR-ALL（伊東豊雄理事長）、熊本県・熊本アートポリス建築展2021実行委員会、共催は仙台市。仙台市青葉区のせんだいメディアテークや、熊本市中央区のホテル熊本テルサ、各地のみんなの家をオンラインで結んだ。

みんなの家は東日本大震災の被災時、仮設住宅におけるコミュニティの場の必要性を感じていた伊東氏らが

発案。熊本アートポリスのコミッショナーだった伊東氏が、熊本の蒲島郁夫知事から支援を得て始めた。仙台市宮城野区を皮切りに東日本大震災の被災地で16棟が、熊本地震の被災地で100棟余りが整備された。解体された家もあるが、熊本県内では約8割が利活用されている。

参加した建築家からは「みんなの家とは活動であり、きっかけができた。広がっていくことが建築家たちの役割だ」（山本理顕氏）、「当事者だとみんなが思えることがすごく重要だ。自分たちが街も未来も作っていくというより、どこかを持っていくことだ」と思う（妹島和世氏）などの見解が示された。仮設住宅団地から移築した新浜みんなの家の関係者は、カフェやコンサートに利用してきた経緯に触れ、「地区外から

シンポジウムの様子（HOME-FOR-ALL提供）



も人が来るシンボルになっている。わが家のような状況でこれからも進めたい」と語った。

伊東氏は「非常に小さなスケールだが、新しいタイプの公共の入り口や一つの端緒を形成しつつある。自分の家の延長として使う気持ちを持てるかどうか大きな意味を持つ」と語った。復興して平常状態に戻った時に心をつなぐことができる場が必要との認識も示し、「仙台にこういう空き家があって、みんなの家にしたいという人がいれば一緒にやりたい」と呼び掛けた。

シンポジウム
相馬市公式ホームページ 子どもの遊び場の未来を考える みんなの家シンポジウム
2022/1/23

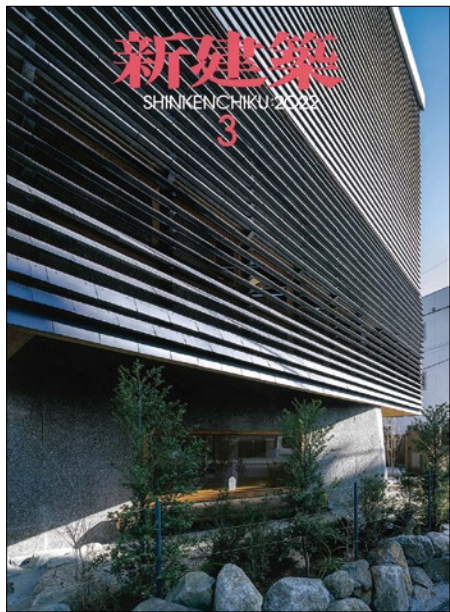
【2022年1月23日】子どもの遊び場の未来を考える みんなの家シンポジウム

みんなの家シンポジウムは1月23日、相馬こどものみんなの家で行われ、阿部勝弘副市長が参加しました。

同シンポジウムは、仙台市や熊本市を中心に全国5会場をオンラインで結び、みんなの家の課題などを議論するもので、NPO法人HOME-FOR-ALL、熊本県・熊本アートポリス建築展2021実行委員会の主催。

熊本会場で建築家の曾我部昌史さんが司会となり、各会場の報告と意見を織り交ぜて議論が進められました。

阿部副市長は「皆さんの発言を聞き、みんなの家という場所を通して地域の人との関係をつくる取り組みが行われてきたことを実感しました。相馬こどものみんなの家の家、子どもたちの遊ぶ場所として活用しています。親同士の交流の場として、子育て世代の方に積極的に利用してほしいです」と述べました。



くまもとアートポリス建築展 2021 シンポジウム
新建築 3月号

HOME FOR ALL SYMPOSIUM——みんなの家って何だろう——

せんだいメディアテーク／宮城、ホテル熊本テルサ／熊本、各地みんなの家 2022.1.23

みんなの家は公共建築たり得るのか
2022年1月23日、シンポジウム「みんなの家って何だろう」が開催された。会場は、みんなの家が建設された、2011年東日本大震災被災地である東北と、2016年熊本地震被災地の熊本に設けられ、東北本会場のせんだいメディアテークほか、東北・熊本各地のみんなの家が中継で繋がれた。中継先のみんなの家では実際の利用者である地域や行政の方も参加し、現地の声を届けた。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、熊本本会場は無観客での開催となったが、東北本会場では観客が参加し、両会場はオンラインでも配信された。第一部では、曾我部昌史氏の司会により各会場を繋いで議論が進められた。発言者が順次登壇から、地域と共にそれぞれができることを出し合い、一緒に空間をつくり、そこでコトが生まれ、人の関係、社会ができていくという、当事者として関わることの価値が示された。原田田嶋氏からはそれこそが「現代の尊厳」であり、公的機関だけが主体とならない建築の可能性があると提起された。最後に伊東氏から、「みんなの家は公共建築たり得るのか」という大きな問いが投げられた。みんなの家が

新しいタイプの公共の端緒を形成しつつあるとしながらも、建築家や住民の発言から生まれ、個性が形態に現れた東型に対し、仮設住宅への設置のために切実という形態で提供された熊本のタイプが、収容する先としてのみんなの家であるのか、また、建築家・住民と行政の協働により、小さなスケールで緩衝を越えた新しい活動の場所を提示したみんなの家が、スケールの大きな建築となった際、経済が独占する世界でどのような価値を持ち得るのか、ということが提起された。

第二部では、東北と熊本に分かれて、伊東氏の問題提起を受けた方たちでそれぞれのテーマを検討していった。東北会場（司会：増廣真由）では、地域の拠り所となる建築の形態や新たな公共建築とは何かという問いが議論の中心となり、場所によって必要な形を試行錯誤することや、それにより形だけでなくその中で起こる活動がシンボルとなることの必要性、またそれらを実現してきたみんなの家は公共建築そのものであるということが示された。呼びかけに応え、福島県の現地者からは新しくみんなの家を一緒に考えたいという言葉が届けられた。熊本会場（司会：東廣真由）では、近代以

降の社会や制度に対して、みんなの家の経験を通した共同性に基づく新たな社会の可能性について議論が行われた。一方で、少子高齢化する過疎地域では、地域の集まる場所を自力だけでは再生できず、県や公益団体による支援の価値や、建築家が介在しない利用という発想が地域を支える力ともなることが示された。（増廣／東北大学）

■登壇者
東北：伊東豊雄／山本理顕／妹島和世／蒲島郁夫／大森廣
／宮田裕典／近藤智恵／アストリッド・クライン／マリー・タイム／久山明雄／谷口雄平
熊本：桂剛毅／東廣真由／曾我部昌史／原田田嶋
／岡野道子／内田文雄／西山良夫／千葉学／山本理顕



東北本会場の様子。東北・熊本各地のみんなの家とオンラインで繋がれた。

くまもとアートポリス建築展2021 広報／SNS広告（Twitter,Facebook,Instagram）
冊子・パンフレット

内容

くまもとアートポリス建築展 2021 巡回展
くまもとアートポリス建築展 2021 トークイベント
くまもとアートポリス建築展 2021 みんなの家シンポジウム
くまもとアートポリス建築展 2021 冊子・パンフレット

■巡回展

くまもとアートポリス建築展2021
くまもとアートポリス巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021
くまもとアートポリス巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021
くまもとアートポリス巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

■トークイベント

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

■みんなの家シンポジウム

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021巡回展 入場無料
～みんなの家、後世へつなぐ復興～
2021年 11月3日(水)～11月16日(日)
会場 熊本市現代美術館 併設 熊本市現代美術館・ギャラリーIII

くまもとアートポリス建築展2021 冊子・パンフレット

くまもとアートポリス「みんなの家」
Kumamoto artpolis "everyone's house"
2011～2021

くまもとアートポリス「みんなの家」
2011～2021

くまもとアートポリス建築展2021実行委員会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は、くまもとアートポリス建築展2021実行委員会(以下「本会」という。)という。

(目的)

第2条 本会は、くまもとアートポリスのこれまでの成果を広く県内外に紹介し、アートポリスのさらなる飛躍と熊本ならではの魅力的な生活文化の創造を目指すとともに、熊本地震、令和2年7月豪雨災害等の自然災害からの創造的復興に際するコミュニティ再生も含め、建築活動ができることを考える機会とし、復興する熊本の姿を全国に向けて発信し、被災者や復興に携わる方へエールを送るくまもとアートポリス建築展2021の開催を目的とする。

(業務)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次のことを行う。

- (1)くまもとアートポリス建築展2021の計画に関すること。
- (2)くまもとアートポリス建築展2021の開催準備に関すること。
- (3)くまもとアートポリス建築展2021の実施運営に関すること。
- (4)その他、本会の目的達成に必要な事業に関すること。

第2章 委員等

(役員の種別及び選任)

第4条 本会には、次の役員を置く。

会 長 1名

副会長 2名

委 員 14名以内

監 事 1名

2 会長は熊本県知事とする。

3 副会長は、くまもとアートポリスコミッショナー及び熊本市長とする。

4 会長、副会長以外の委員及び監事は、会長が委嘱する。

5 委員及び監事は、相互に兼ねることはできない。

(役員の職務)

第5条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 委員は、本会を構成し、会務の執行を決定する。

4 監事は、本会の業務執行状況を監査し、本会に報告する。

(任期)

第6条 会長、副会長、委員及び監事(以下「委員等」という。)の任期は、本会の目的を達成するまでとする。ただし、委員等が委嘱時におけるそれぞれの機関及び団体の役職を離れたときは、会長は当該委員等を解職し、解職された委員等の後任の役職の者に、新たに委員等を委嘱する。

第3章 実行委員会

(構成)

第7条 本会は、委員等をもって構成する。また、委員等が本会に出席できない場合は、委員等が定める代理人を含めて本会を構成することができるものとする。

(機能)

第8条 本会は、この会則に定めるもののほか次の事項を議決する。

(1)事業計画の決定

(2)事業報告の承認

(3)その他、本会の運営に関する重要な事項

(招集)

第9条 本会は、会長が招集する。

(議長)

第10条 本会の議長は、会長又はあらかじめ会長が指名する者がこれに当たる。

(議決)

第11条 本会の議決は、本会構成員の総数の半数以上が出席する本会において、出席者の過半数の同意をもって決する。ただし、可否同数の場合は議長の決するところによる。

2 感染症拡大防止等のやむを得ない理由のため、対面の会議形式による開催が困難な場合、書面又はオンライン等の電磁的方法により委員等は議決権を行使することができるものとする。

第4章 会計

(経費)

第12条 本会の経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、令和3年4月1日に始まり、令和4年3月31日に終了する。

2 会計に関し必要な事項は、事務局長が定めるものの他、熊本県の財務に関する諸規則の例による。

(予算及び決算)

第14条 収支予算は、本会の議決を経て定め、収支決算は、監事の監査を経て本会の承認を得なければならない。

第5章 事務局

第15条 本会の事務を処理するために事務局を熊本県土木部建築住宅局建築課内に置く。

2 本会の事務局長は熊本県土木部建築住宅局建築課長とする。

3 事務局に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

第6章 雑則

(解散)

第16条 本会は、その目的が達成されたときに解散する。

(運営規則)

第17条 この会則に定めのあるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な規則は、会長が別に定める。

付 則

この会則は、令和3年5月28日から施行する。

くまもとアートポリス建築展2021実行委員会 委員構成

役 職	委 員 名	氏名（ ）は前任者
会 長	熊本県知事	蒲 島 郁 夫
副会長	くまもとアートポリスコミッショナー	伊 東 豊 雄
副会長	熊本市長	大 西 一 史
委 員	熊本県議会建設常任委員会委員長	河 津 修 司
委 員	熊本県市長会会長	佐 藤 義 興
委 員	熊本県町村会会長	荒 木 泰 臣
委 員	熊本県文化協会会長	村 上 輝 和
委 員	（公社）熊本県観光連盟会長	森 敬 輔 （矢田 素史）
委 員	熊本大学学長	小 川 久 雄
委 員	熊本県立大学学長	半 藤 英 明
委 員	（一社）日本建築学会九州支部熊本支所長	伊 東 龍 一
委 員	（一社）熊本県建設業協会会長	土 井 建
委 員	（一社）熊本県建築協会会長	笹 原 健 嗣
委 員	（一社）熊本県建築士事務所協会会長	南 孝 雄
委 員	（公社）日本建築家協会九州支部熊本地域会代表幹事	堀 田 実
委 員	（一財）熊本県建築住宅センター理事長	磯 田 桂 史 （内山 督）
委 員	熊本県土木部建築住宅局長	小 路 永 守
監 事	（公社）熊本県建築士会副会長	平 井 章

協力・後援団体

協 力	熊本県文化協会、（公社）熊本県観光連盟、熊本大学、熊本県立大学、（一社）日本建築学会九州支部熊本支所、（一社）熊本県建設業協会、（一社）熊本県建築協会、（一社）熊本県建築士事務所協会、（公社）熊本県建築士会、（公社）日本建築家協会九州支部熊本地域会、（一財）熊本県建築住宅センター、熊本市現代美術館〔熊本市・（公財）熊本市美術文化振興財団〕
後 援	熊本日日新聞社、西日本建設新聞社、NHK熊本放送局、熊本放送、テレビ熊本、熊本県民テレビ、熊本朝日放送、エフエム熊本、FM791

くまもとアートポリス建築展2021
「自然災害が頻発する社会をどう生きるか」
— みんなの家、後世へつなぐ復興 —

総合記録

2022年3月発行

発行：くまもとアートポリス建築展2021実行委員会 橋本 知章 中園 征也 上野美恵子 本田 昭浩 東 修
事務局 熊本県建築課内 松澤 博幸 井上 智大 村端 將臣 立花 紘子 土井 一馬
〒862-8570
熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
TEL 096-333-2537

編集・デザイン：総合企画株式会社

くまもとアートポリスの取り組みはホームページやSNSなどで発信しています！



ホームページ



facebook



twitter



instagram



Pinterest



YouTube